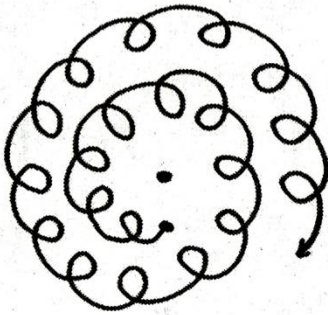


資源について

「日本は資源が少ない国」とよくいわれる。ここでいう資源とは主に石油や石炭、いわゆる化石燃料のことだと思ふ。その他に、鉄や銅、貴金属、非金属、希少金属などの鉱物資源も現在の産業には欠かせない。最近では遺伝子資源など、生命現象の中に秘められた資源にも注目が集まっている。地球上の全ての生命現象をまとめて、時空を超えた四次元環境生命体と考えたとき、日本という国の資源のレベルはどのように評価されるだろうか。生命にとって最も重要なものはエネルギー（太陽）、水（大洋）、二酸化炭素（大気）、ミネラル（大地）である。日本には春夏秋冬という豊かな季節の回りがあり、十分な日照時間、モンスーン地帯特有の豊富な降水量、昼と夜の気温の適度な落差など、豊かな生命世界を保持するためのあらゆる環境条件が整っている。日本の場合、化石燃料資源は確かに少ないが、これらは掘り起こ



38億年の生物エネルギーの循環

して使ってしまったら終わりである。長期的に見た場合に、化石燃料の豊かな国であることを、必ずしも資源国とは言えないのではないだろうか。我が国は、いわゆるバイオ燃料を生産するための自然環境は十分に整っており、その技術開発能力（知的資源、知的財産）も豊かなので、この分野で世界をリードし、発展途上国に技術供与を行い、国際貢献を果たすべきである。

さらに、原子力エネルギーの場合、核燃料は安全なシステムとして循環することがなく、使えば使うほど生物にとって危険極まりない放射性核廃棄物が蓄積する。原発問題は、国レベルを超えて、地球レベルで、国際機関で取り組むべき課題になりつつある。そのまとめ役として日本は重大な責務を負っている。さらに加えるならば、日本は核兵器の燃料となる精製プルトニウムを47ト保有し、これは核爆弾6000発分に相当する。わが国は既に強力なH2型ロケットを開発し、宇宙開発で世界に貢献している。近年、JAXA（日本宇宙研究開発機構）が、「はやぶさ」で示した遠隔操作技術は世界をアツと言わせた。日本は、戦力を保持しようとするれば、瞬時に世界のトップに躍り出してしまう程の潜在的な科学技術力を保持している。このことは、すでに世界の脅威にもなっている。日本国民は、「素敵な地球人になる終わりのない練習」を積んでいる平和人集団として、平和国家宣言を行い、世界にその範を示すべきではないだろうか。